

財団法人日本バレーボール協会 第 206 回理事会 議事録

日 時：平成 22 年 2 月 19 日(金) 14：00～15：30

会 場：津田ホール会議室(東京・渋谷区)

出席者：立木会長、中野副会長、梅野・山根・岩満・萩原・成田・下山・不老・三屋・
中島・小場・森田・西川・河合・紺屋・大塚・小島各理事

【委 任】山岸・倉橋・竹内・ゼッターランド・岩井・清水・残間各理事

【監 事】岡崎・大久保各監事

陪席者：豊原・五十嵐・斎藤・三浦・小田桐・谷地・中野・天野(事務局)

理事現在数 25 名、うち出席 18 名、委任 7 名、計 25 名で寄附行為第 28 条に基づき理事会が成立。議事録署名人に成田明彦理事、大塚慶二郎理事を指名。14 時 00 分、立木会長を議長に議事に入る。

<審議事項>

1. 平成 22 年度基本方針について

(岩満理事・事務局長) 資料により説明。

*国内基盤の充実

「するスポーツ」としては、競技人口のより一層の拡大とその奥行きを深耕を図り、「観るスポーツ」としてはバレーボールの支持層の拡充を目標とする。若年層に積極的に働き掛けるほか、幅広くバレーボールの参加の機会を与えることが可能なシステム作りを行う。

- ・地域クラブ育成事業の開始。
- ・全国ヴィンテージ 8' s 交流大会やパークバレーボール大会開催など、新規大会設立と大会の定着への支援。

*国際ポジションの維持・強化

国際貢献活動と FIVB 主催メジャー国際大会の招致を行う。

- ・ボールバンクの設立
- ・FIVB 主催メジャー国際大会の招致

*社会、経済環境の変化

新公益法人制度の対応を考慮するとともに、20 年後(2030 年)を視野に入れた活動と長期グランドデザインの作成。

以上のとおり資料に基づき趣旨説明があり、理事会は平成 22 年度基本方針について諮り、この案をもって 3 月 5 日の第 75 回評議員会に諮問することについて異議なく承認可決。

2. 平成 22 年度事業計画について

〔1〕 業務推進事業本部

(岩満理事・業務推進事業本部本部長) 資料により説明。

*公益法人制度改革に伴う、法人移行(長期グランドデザインの作成)

- ① 2008 年 12 月 1 日施行の公益法人制度改革に伴う法人移行と併行し、社会、経済環境の変化と、20 年後を視野に入れた活動のあり方を具現化。
- ② 新制度の要求する経済性、透明性への対応。
- ③ JVA の目的、事業内容、収入支出状況と諸規程(寄附行為→定款含む)の改定や、会計、税務等の検討。

*JVA メンバーシステム(MRS)の継続実施

- ① インターネットによるメンバー登録の実施。
- ② メンバーネットワークの整備。

*情報化推進事業

- ① 情報化長期戦略の策定
- ② 公式サイトの再構築
- ③ 加盟団体、及び各委員会とのネットワーク構築を検討

*環境問題啓発活動の促進

- ① JOC スポーツ環境委員会の環境基本理念と行動指針に全面的に協力し、地球環境の保全に貢献する。
- ② ボールバンクの設立。

〔2〕 M&M事業本部

(森田理事・M&M事業本部本部長) 資料により説明。

*マーケティング

- ① 2010 年度版全日本男女チームスポンサープログラム
- ② 既存スポンサーへの充実したフォロー作業
- ③ 高齢化時代に相応しい中高年男性を中心とする混合 8 人制バレーボール大会「全国ヴァンテージ 8' s 交流大会」の実施準備およびスポンサー獲得作業
- ④ 「パークバレーボール」の実施計画立案

*マーチャンダイジング

- ① 肖像権ビジネス
- ② JVA 主催大会会場でのグッズ販売の拡大

〔3〕 強化事業本部

(成田理事・強化事業本部本部長) 資料により説明。

*全日本男子チーム

昨年のワールドグランドチャンピオンズカップ 2009 に続き表彰台を目指す。2010 年度は若手有望選手の発掘と併せて、現代表選手のフィットネス増強を図る。

○2010 男子世界選手権(2010 年 9 月 24 日～10 月 10 日/イタリア)

○第 2 回アジアカップ(2010 年 8 月 1 日～7 日/イラン)

○第 16 回アジア競技大会(2010/広州) (2010 年 11 月 12 日～27 日/中国)

***全日本ユース男子チーム・全日本ジュニア男子チーム・全日本ユニバ男子チーム**

第 8 回アジアユース男子選手権大会は、ユースオリンピック競技大会、世界ユース男子選手権大会の予選を兼ねており、優勝を目標に強化する。

○第 8 回アジアユース男子選手権大会(2010 年 5 月 13 日～21 日/イラン)

○第 1 回ユースオリンピック競技大会(2010 年 8 月 14 日～26 日/シンガポール)

○第 15 回アジアジュニア男子選手権大会(2010 年 10 月 1 日～9 日/タイ)

○第 7 回東アジア地区選手権大会(2010 年 9 月調整中/韓国)

***全日本女子チーム**

5 月下旬から 7 月中旬にかけて 40 日程度の海外遠征(5 カ国)を組み、11 月の世界選手権に向けて個人技の確立、チーム力のアップを目指す。

○ワールドグランプリ

予選ラウンド 第 1 週：2010 年 8 月 6 日～8 日/ブラジル

第 2 週：2010 年 8 月 13 日～15 日/岡山

第 3 週：2010 年 8 月 25 日～29 日/東京

ファイナルラウンド(2010 年 8 月 19 日～23 日/中国)

○第 2 回アジアカップ(2009 年 9 月 19 日～25 日/中国)

○2010 女子世界選手権(2009 年 10 月 29 日～11 月 14 日/東京)

○第 16 回アジア競技大会(2010/広州) (2010 年 11 月 12 日～27 日/中国)

***全日本ユース女子チーム・全日本ジュニア女子チーム・全日本ユニバ女子チーム**

第 8 回アジアユース女子選手権大会は、ユースオリンピック競技大会、世界ユース女子選手権大会の予選を兼ねており、優勝を目標に強化する。

○第 8 回アジアユース男子選手権大会(2010 年 5 月 20 日～28 日/マレーシア)

○第 1 回ユースオリンピック競技大会(2010 年 8 月 14 日～26 日/シンガポール)

○第 15 回アジアジュニア男子選手権大会(2010 年 9 月 12 日～20 日/ベトナム)

○第 7 回東アジア地区選手権大会(2010 年 9 月調整中/韓国)

***ビーチ**

① 第 16 回アジア競技大会(2010/広州)派遣

男女とも出場チーム全てのメダル獲得を目指す。

② ユニバーシアード派遣

男女上位入賞。

③ アジア選手権及び、ワールドツアー派遣

オリンピック予選の前年となる今年はワールドツアーでランキング上位を狙い、予選でのシード権獲得等、環境条件を有利にすることを旨とする。

④ ジュニア強化合宿

次代の人材発掘及び育成。

- *一貫指導 ※詳細は資料に記載の通り。
- *科学研究委員会 ※詳細は資料に記載の通り。
- *アンチ・ドーピング小委員会 ※詳細は資料に記載の通り。

(質疑応答)

「全日本チームにメディアトレーニングの場を設けていただきたい」という意見があり、成田理事より「先月ビーチバレー選手を対象にメディアトレーニングを行ったところ好評だったので、全日本チームにも取り入れていく方向で検討を進めている」という説明があった。

〔4〕 国際事業本部

(下山理事・国際事業本部本部長) 資料により説明。

*FIVB 女子バレーボール世界選手権

放送：TBS 系列

(女子大会)

参加 24 チーム：日本(開催国)、ロシア(前回大会優勝)、中国・カザフスタン・韓国・タイ(アジア代表)、カナダ・コスタリカ・キューバ・ドミニカ共和国・プエルトリコ・アメリカ合衆国(北中米代表)、アルジェリア・ケニア(アフリカ代表)、クロアチア・チェコ・ドイツ・イタリア・オランダ・ポーランド・セルビア・トルコ(ヨーロッパ代表)、ブラジル・ペルー(南米代表)

第1次ラウンド (2010年10月29～31日、11月2・3日)

Pool A： 国立代々木競技場第一体育館 (東京)

Pool B： 浜松アリーナ (浜松)

Pool C： 松本市総合体育館 (松本)

Pool D： 大阪府中央体育館 (大阪)

第2次ラウンド (2010年11月6・7日、9・10日)

Pool E： 国立代々木競技場第一体育館 (東京)

Pool F： 日本ガイシホール (名古屋)

準決勝・決勝 (2010年11月13・14日)

Pool G： 国立代々木競技場第一体育館 (東京)、東京体育館 (東京)

*FIVB ワールドグランプリ 2010 女子バレーボール大会

放送：フジテレビ系列

参加国 (12カ国)

アジア代表： 日本・中国・韓国・タイ

ヨーロッパ代表： イタリア・ドイツ・オランダ・ポーランド

北中米代表： ドミニカ共和国・プエルトリコ・アメリカ

南米代表： ブラジル

- 1) 予選ラウンド Week2 8月13日(金)～8月15日(日) (桃太郎アリーナ)
日本・ポーランド・ドイツ・韓国
- 2) 予選ラウンド Week3 8月20日(金)～8月22日(日) (国立代々木競技場第一体育館)
日本・イタリア・オランダ・ドミニカ共和国

***FIVB ワールドリーグ 2010 プレーオフ男子バレーボール大会(詳細未定)**

9月上旬予定。

***第22回アジア太平洋カップ**

6月18日(金)～20(日) (福岡市民体育館)

参加国：中国(ジュニア/ユニバ)/韓国(ジュニア/ユニバ)/タイ(シニアナショナル
チーム決定)/日本(ユニバ予定)

〔5〕 国内事業本部

(萩原理事・国内事業本部本部長) 資料により説明。

(1) 国内事業本部会

- ① 国内最高峰6人制競技会…天皇杯・皇后杯の更なる充実
- ② 加盟登録チームの増加…7万チームを目指す。
- ③ 競技会の抜本的見直し…主催競技会の見直し。
全国高等学校バレーボール選抜優勝大会を2010年度より名称変更し、「第63回全
日本バレーボール高等学校選手権大会」とする。
- ④ 協力役員の養成…メンバー制度の確立。
- ⑤ 他事業本部との連携…用具の公認と競技会の協賛獲得。

(2) 新規事業の推進

- ① クラブ育成事業の推進
- ② 国内最高峰9人制競技会…9人制総合の充実。
- ③ 地域リーグの活性化…新地域リーグの発展
- ④ 生涯スポーツの充実…全国ヴィンテージ8's交流大会の開催
- ⑤ バレーボールの普及…パークバレーボールの開催
- ⑥ 競技会の経費…主催競技会を見直し、より充実させる。
- ⑦ 諸規程…各種事業に伴う諸規程の策定。

(3) 指導普及委員会

- ① バレーボール指導者育成の推進…日体協公認指導者の増大。指導者の資質向上に努め
る。
- ② バレーボール人口の拡大に向けた事業推進…底辺拡大とともに登録者の拡大を推進
する。幅広い層に対し、各種普及事業を展開する。
- ③ 加盟団体への支援活動…指導者講習会・研修会への支援活動。各種普及事業への支援
活動。

(4) 国内競技委員会

- ① 競技会の見直し…9人制総合の活性化と9人制トップリーグの検討継続
- ② 日体協関連事業…今後の国体・マスターズの運営の検討
- ③ 普及事業の推進…天皇杯・皇后杯全日本選手権大会の推進、全国6人制実業団男女優勝大会の改編に伴う新規大会の推進
- ④ IT化の推進と活用…個人登録制度と競技会運営との連携
- ⑤ ホームページの活用…競技会情報の提供
- ⑥ 競技研修会の充実…競技会運営のための情報提供

(5) 審判規則委員会

- ① 新しい人材の発掘・育成…若年層・女性審判員の発掘・育成
- ② 技術の安定・向上…審判員・判定員のレベルアップ
- ③ スキルアップ事業の推進…熟練審判員を含めたスキルアップ事業
- ④ ルールの研究…各年代、各種別に応じたルールの研究
- ⑤ 公認審判員・判定員のあり方の検討…JVA登録メンバーとしての帰属意識の向上
- ⑥ 情報の開示についての検討…公開できる情報内容について検討し、開示を図る。

以上のおり資料に基づき趣旨説明があり、理事会は平成22年度事業計画について諮り、この案をもって3月5日の第75回評議員会に諮問することについて異議なく承認可決。

3. 平成22年度収支予算について

(岩満理事・事務局長) 資料により説明。

平成22年度予算編成については経理規程に則り平成21年度と同様の方法で進め、①収入見込み算出②各本部に概算配分額提示③概算配分を各本部で調整④本予算策定の順で予算編成を行った。

まず収入見込だが、当期経常収益合計として、前年度の経常収益合計23億6,878万円より1億3,535万円増の25億413万円を計上した。

経常費用は、国際事業本部関連事業費に前年度より2億2,402万円増の8億5,539万円を計上したが、これはFIVB女子バレーボール世界選手権の開催経費を見込んだ増額である。当期経常費用合計は前年度の合計23億1,074万円より1億9,659万円増の25億733万円を計上した。

以上のおり資料に基づき趣旨説明があり、理事会は平成22年度収支予算について諮り、この案をもって3月5日の第75回評議員会に諮問することについて異議なく承認可決。

4. 法人移行に伴う加盟団体規程について

(岩満理事・業務推進事業本部本部長) 資料により説明。

法人移行に伴う定款の変更の案では、新法人の機関と運営に大きな差異がある。特に評議員会に関しては、その権能ほか現行と大きな差異がある。

これまで、加盟団体代表者と JVA が意思の疎通を図る場として重視してきた現行評議員会だが、新公益法人制度の評議員会はそうした場には成り得ない。

今後も従前のような両者の意思疎通を図る場を確保することが望ましく、そうした案件を中心に加盟団体規程としてまとめここに提案する。

また、現行寄附行為による加盟団体の取扱いを明文化した規程はなく、そうした意味からも、新公益法人制度による法人移行に伴い加盟団体規程を整備することが望ましいものと思われる。

なお、この規程は新法人設立登記の日を停止条件とした規程となる。

以上のおり趣旨説明があり、理事会は加盟団体規程について諮り、異議なくこれを承認可決。
--

以上で全議事を終了、15 時 30 分閉会。